

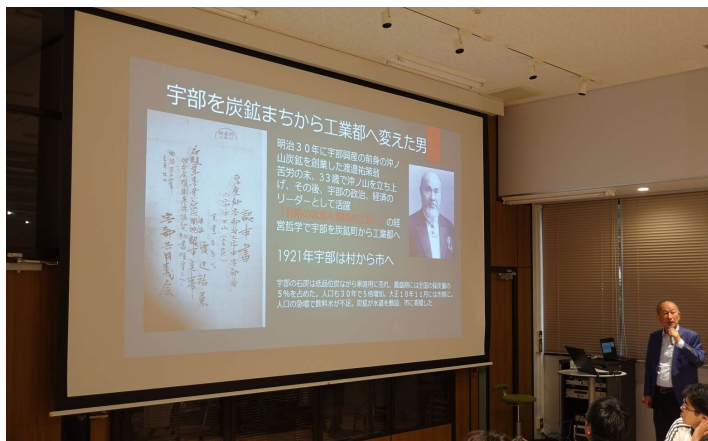
第3回 日本一学生が活躍するまちづくり ワークショップ

日 時：2025.6.11（水）18：00～19：30

場 所：山口大学常盤キャンパス「志」イノベーション道場

◆令和7年度（2025年度）施政方針

宇部市は、令和7年度から学生の感性と行動力をまちづくりに反映させて“若者に選ばれるまち”を目指す「日本一学生が活躍するまちづくり」事業を開始しました。学生の視点・発案をまちづくりに反映させる仕組みを構築・実践するためのワークショップには、公募により選ばれた市内外の大学生約40人が参加しています。



《ゲストトーク》 株式会社宇部日報社 会長 脇和也 氏 「逆境を味方に共存同栄で発展してきた宇部市の未来」

第3回目は、株式会社宇部日報社の脇和也会長をゲストスピーカーにお迎えし、「逆境を味方に共存同栄で発展した私たちのまち」をテーマに講演していただきました。

脇会長は、江戸時代の宇部の領主・福原家の歴史から、炭鉱で栄えた近代、その時代の宇部を支えた社会制度を紹介しました。

さらにUBE株式会社(旧・宇部興産株式会社)の前身である沖ノ山炭鉱組合の創業者・渡辺祐策翁が、政治・経済のリーダー役を務めた明治時代にも言及し、「村」から直接「市」になったのは全国6都市しかない歴史を解説しました。

戦後には、進む工業化を背景に公害という社会課題に直面したものの、「緑と花と彫刻のまち」へと変貌を遂げたことから学んでほしいとメッセージを送りました。

講演の後、参加する学生は、感じている身の回りの社会課題を共有し議論しました。第2回目までの学びをもとに、解決すべきだと思う課題を記した紙がホワイトボードに掲示されると、共通する問題意識を持つ学生が声を掛け合い、意見を交わしていました。課題は「宇部市の政策や魅力が子どもを含む若い世代に届いていない」「産業構造が偏っている」「若者を中心に市外や県外への流出が止まらない」「学生が交流する機会などが無い」などが挙がりました。一方、ファシリテーターを務める山口大学の林准教授からは「こうした全国的に指摘されている課題によって、宇部市では、誰が、どのように困っているのかという水準で検討することでこそ、社会に求められる政策を提案することができる」とアドバイスがありました。



第4回(6/18)では、株式会社山口銀行の小池政弘専務執行役員をゲストスピーカーにお迎えし、地域経済の先行きや大企業で働いてきた経験などについて講演していただきます。